

『ダ・ヴィンチ・コード』が引き起こした世論

オプス・デイ広報室（ローマ、ニューヨーク）

全体的な評価を下には、映画の上映が終るのを待たねばならないだろうが、今のところ広報の努力から次の三つの積極的な結果を指摘することができよう。

1, 教会の協力

教会とイエスキリストの人物について正確な知識を提供することを目的として、教会の様々な組織の間に協力的な雰囲気広がった。その上、『ダ・ヴィンチ・コード』が引き起こした騒動のために教会に近づいた人々のニュースが届いている。

2, マスコミ関係者との協力

2006年の前半にマスコミの報道は非常に広い範囲に及んだ。映画会社が「映画を売る」ために莫大な資金をつぎ込んだのに対し、カトリック信者は自分の信仰を説明し、マスコミ関係者に情報を提供しようとした。

3, 反応があった

映画の上映に先立った活動によって、『ダ・ヴィンチ・コード』が、キリスト教とカトリック教会とオプス・デイについて不正な誤ったイメージを伝えているとの意識が醸成された。世論は、『ダ・ヴィンチ・コード』にその実態に即した評価を与え始めている。つまり、現実とは関わりのない、最も新しい「偽大衆文化」の一種という評価である。

このような抗議を前に、著者は自分のサイト、「Fact」（『ダ・ヴィンチ・コード』についての事実）に四回続けて修正を加えなければならなかった。以下、「この小説はどの程度まで事実に基づいているのか」という質問に対してダン・ブラウンが自己のホームページに載せた四つの宣言である。

- 2003年8月28日。「100%。この小説に載せた美術作品、場所、歴史的史料、組織は、一つ残らず存在する・・・。」

- 2004年1月17日。「この小説に出てくる美術作品、場所、歴史的史料、組織は、一つ残らず存在する・・・。」

- 2004年5月11日。「『ダ・ヴィンチ・コード』は小説である。つまり、フィクションだ。この本に登場する人物とその活動は、言うまでもなく現実のものではないが、美術作品、建築、文書は・・・。」

- 最新のもの（2006年1月30日）。「『ダ・ヴィンチ・コード』は小説、すなわちフィクションの作品である・・・。」

今までに『ダ・ヴィンチ・コード』は、しなくてもよいたくさんの仕事を我々の肩に負わせた。

しかし、それと同時に、我々の見方を公にかつ積極的な仕方で発表しようという決意を余儀なくされ、そのことはキリスト教の信仰、カトリック教会、その教会の小さな部分であるオプス・デイについて知らせるまたとない好機となったことも認めねばならない。